

南房総市への転入者へのアンケート調査結果概要

■アンケート調査概要

調査主体	：南房総市
調査協力	：経済学部 籠義樹教授 経済社会総合研究センター 長岡篤客員研究員、持木克之客員研究員
調査目的	：南房総市への転入理由や転入前後の生活の満足度の変化、今後の南房総市への居住意向などを把握することで、南房総市の定住人口確保に向けた政策に反映すること
アンケート調査対象者	：2016～2017年度に南房総市に転入した全ての18歳以上の日本人の住民1,114人
調査方法	：現住所にアンケート調査票を郵送して回収
調査期間	：2018年8月～10月末
回答者数	：344人（回収率30.9%）

■アンケート調査結果

（１）回答者の属性

南房総市に自ら望んで転入した住民が230人（72%）であり、このうち男性が128人（38%）を占めている。職業別では、会社員・団体職員が74人（24%）と最も多く、次いで無職・求職中が66人（21%）であった。世帯構成では、親と子が108人（35%）と最も多く、次いで夫婦のみが95人（31%）、単身者が41人（13%）であった。

（２）転入元の都道府県・市区町村

転入元は千葉県内の市区町村が167人（51%）と最も多く、次いで東京都が66人（20%）となり、千葉県内と東京都からの転入の合計で7割を超えている。千葉県内の転入元市区町村をみると、南房総市と隣接する館山市が42人（25%）と最も多くなっており、隣接する鴨川市などからの転入も多いことから、生活圏が近いと考えられる自治体からの転入が多い。

表1 転入元の都道府県・市区町村

千葉県内の市区町村	東京都	埼玉県	神奈川県	その他の道府県	計
167 (51%)	66 (20%)	22 (7%)	40 (12%)	33 (10%)	328 (100%)
うち、千葉県内の転入元市区町村の内訳					
館山市	千葉市	鴨川市	船橋市	その他の市町村	計
42 (25%)	24 (14%)	15 (9%)	14 (8%)	72 (43%)	167 (100%)

注：転入元が無回答の16人は除外

（３）転入理由と転入元との関係

転入元別に転入理由をみると、千葉県内の市区町村からの転入の場合、親や子・孫との同居・近居や、親や親戚などの介護といった、家族の都合のためが3割を超え最も多く、回答者自身の事情だけではない転入が多い。東京都、埼玉県、神奈川県からの転入では、いずれも南房総市を気に入ってが最も多くの割合を占め、自らの意思で積極的に同市に転入した住民であるといえる。

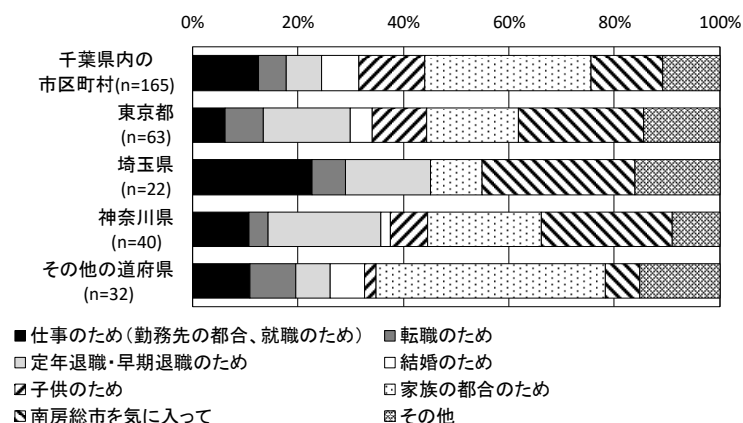


図 1 転入元別の転入理由（転入理由は複数回答）

（４）転入前後の満足な点と不満・不便な点の変化

1) 満足な点の変化

転入前の満足な点では、買い物など日常生活の利便性や交通・通勤の利便性が７割前後と多く、転入後の満足な点では、自然環境が良い、気候が良い、山や海を利用したレジャーが楽しめるといった南房総市の地域性に関する割合が高い。

満足な点の変化を、自ら望んで転入したかどうかによる違いでみると、「自ら望んで転入した」住民は、自然環境や気候、山や海を利用したレジャーといった項目で割合が高くなっている。「やむを得ず転入した」住民は、これらの割合はそれほど高くない。いずれも、交通・通勤の利便性や買い物など日常生活の利便性、病院・診療所の充実といった割合は大きく減少している。

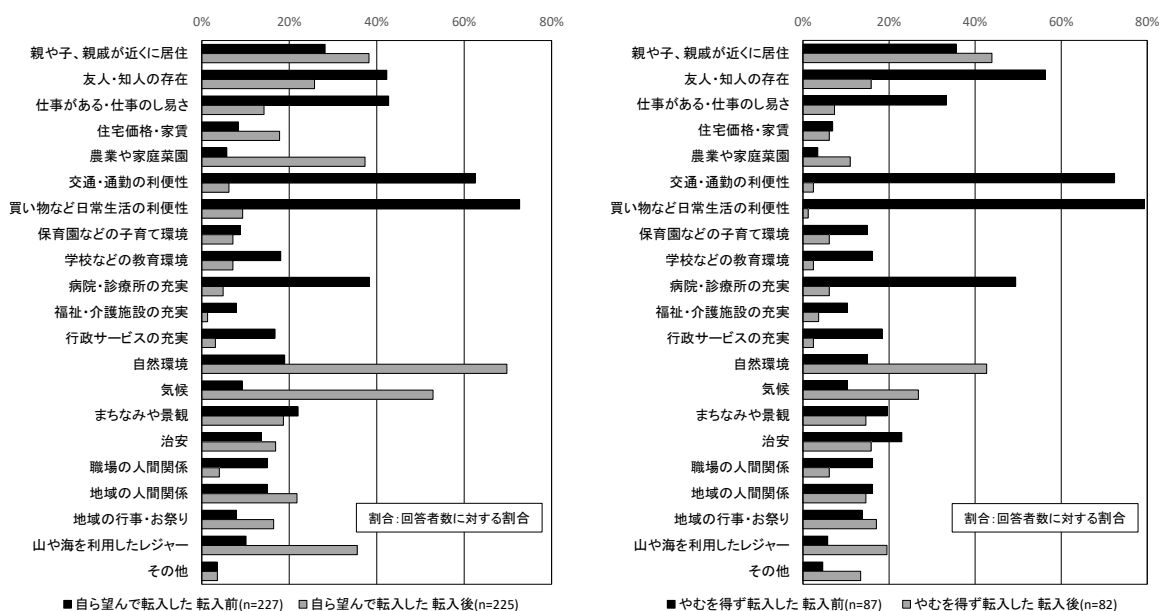


図 2 転入前後の満足な点の変化（複数回答）

2) 不満・不便な点の変化

転入前の不満・不便な点では、住宅価格・家賃が高かった、親や子、親戚がそばにいなかった、自然環境が良くなかったなどの割合が高く、転入後の不満・不便な点では、交通・通勤の利便性

や買い物など日常生活の利便性、病院・診療所が不十分といった項目で割合が高い。

不満・不便な点の変化を、自ら望んで転入したかどうかによる違いでみると、全体的な傾向は同様であるが、「やむを得ず転入した」住民の方が、交通・通勤の利便性や買い物など日常生活の利便性、病院・診療所の項目で割合が高い。

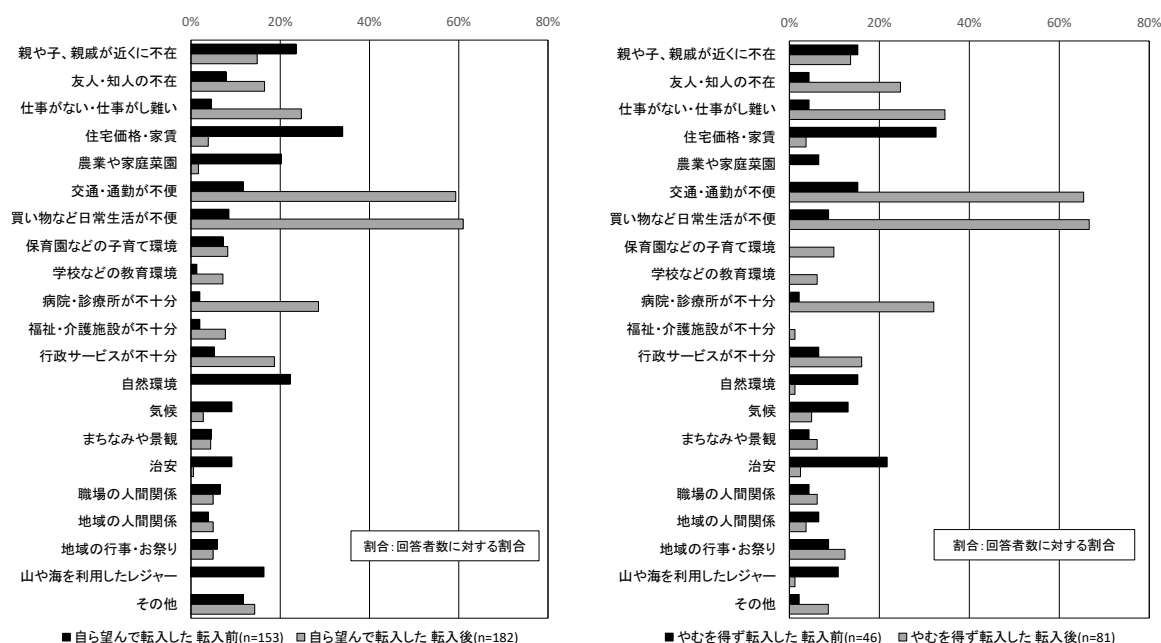


図3 転入前後の不満・不便な点の変化（複数回答）

（5）転入の満足度

南房総市へ転入して良かったと思うかでは、「思う」が最も多く 143 人（42%）、次いで「どちらかといえば思う」が 70 人（20%）であった。一方「思わない」は 24 人（7%）、「どちらかといえば思わない」は 17 人（5%）、「どちらともいえない」は 83 人（24%）であった。

（6）今後の南房総市での居住意向

1）今後の居住意向

南房総市に住み続ける可能性では、「住み続けたい」が最も多く 202 人（59%）、「今はわからない」が 104 人（30%）、「他の市区町村に転出したい」が 24 人（7%）であった。

2）住み続けたい理由

「住み続けたい」住民にその理由を尋ねた。自ら望んで転入した住民では、南房総市を気に入っているから、生まれ育った場所だから、親や子・孫との同居・近居のための割合が高い。やむを得ず転入した住民では、家族の都合のため、生まれ育った場所のための割合が高い。

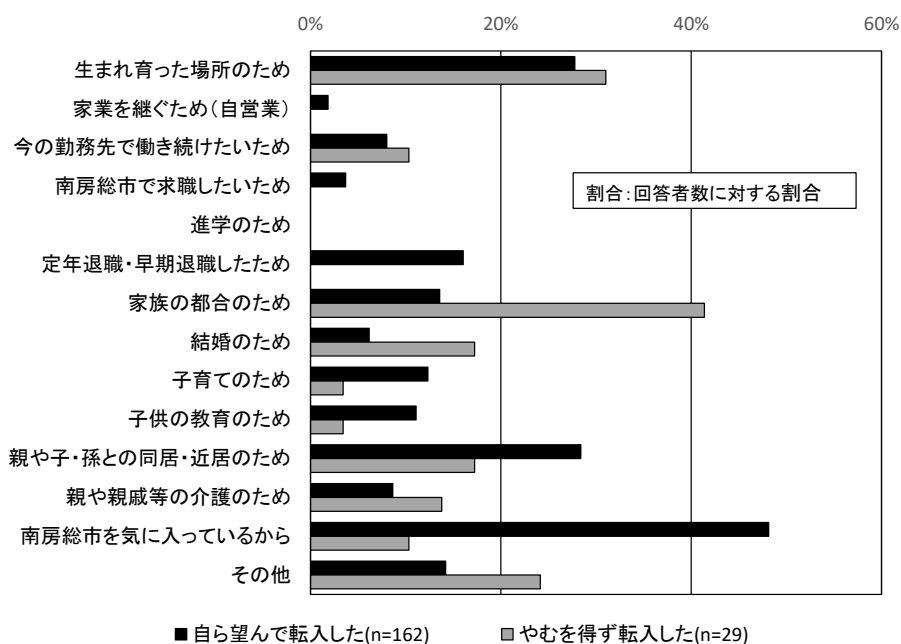


図 4 南房総市に住み続けたい理由（複数回答）

3) 住み続ける条件と転出したい理由

「今はわからない」住民は住み続ける条件を、「他の市区町村に転出したい」住民はその理由を尋ねた。いずれも交通の利便性、買い物の利便性、希望する仕事、病院・診療所の利便性の割合が高く、生活利便性が不満と考えている。

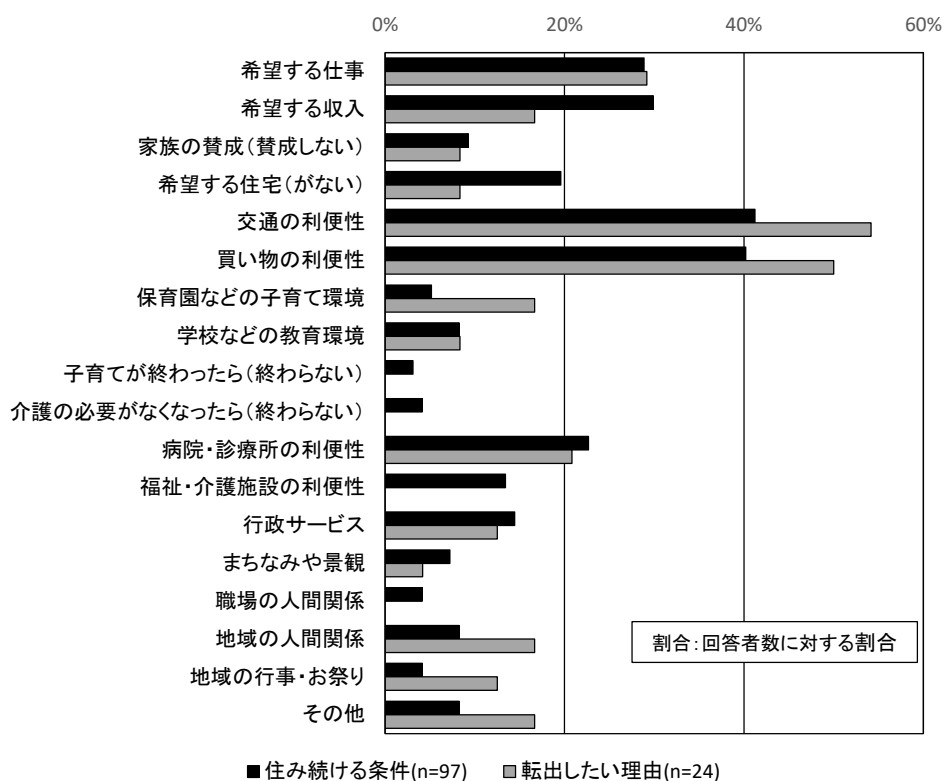


図 5 住み続ける条件と転出したい理由（複数回答）